

第27回文化財防火デー 防火訓練

1月23日(土)、北入曾にある野々宮神社で「第27回文化財防火デー防火訓練」が実施されました。

これは、昭和24年1月26日に法隆寺金堂壁画が焼失したことを契機に、文化庁と消防庁が毎年1月26日を文化財防火デーと定め、その日を中心に全国で文化財防火運動が展開されています。



狭山市では狭山市教育委員会と狭山市消防本部が主催し、毎回開催場所を変えながら行っています。

午前9時、神社境内に地域住民、市職員、消防関係者が集まりました。始めに門倉教育長が「文化財を愛護する思想と伝統文化を守り育て、そしてしっかりと伝えていくことが大切だと思います」と挨拶しました。

続いて仲川狭山市長、入曾地区連自治会長が挨拶し、地域住民の参加に感謝の言葉を述べました。その後、消防署員より訓練内容の説明を受け訓練が始まりました。

はじめに初期消火訓練が行われ、参加者は3班に分かれ、水消火器による消火訓練、電話通報訓練、

バケツリレーによる初期消火訓練を消防署員の指導の下、各班交代で行いました。

そして、神社境内の枯れ草から火災が発生し、文化財に被害が及びそうだという想定の下に、一連の消火訓練が行われました。参加者達は、訓練通りに通報から初期消火を行い、最後は通報で駆けつけた消防署・消防団による放水が行われました。

最後に講評として消防長が「貴重な文化財を守るためには地域住民や関係者の方々、一人一人が常に危機意識を持って万が一に備えることが何より重要だと思います」と話しました。

この日の訓練は地域住民、およそ50名が参加し、貴重な文化財の保護と防火の意識が高められました。

第17回狭山市スポーツ少年団 マラソン大会

1月24日(日)、狭山稲荷山公園で「第17回狭山市スポーツ少年団マラソン大会」が開催されました。



これは、団員たちの親睦とスポーツ精神の醸成、持久力などの体力向上を図る事を目的に、狭山市スポーツ少年団が主催、狭山市接骨師会の協力で行なわれているものです。

対象は市内スポーツ少年団所属の小学4～6年生で、野球、サッカー、ミニバスケなど36チームから総勢891名が参加しました。

競技コースは、公園の内周を回るもので、4年生男女は2000メートル、5・6年生男女は4000メートルを走ります。選手たちは、それぞれのユニフォームを包み、チームメンバーや保護者の声援を受け、園内の起伏に富んだコースに挑戦しました。

今回は大会新となる記録を1名が達成、参加者全員が完走しました。

この日は、天候に恵まれ、子どもたちは日頃の成果を出し切り、自分たちの体力に挑戦しました。

甲斐慎太郎プロ チャリティティーゴルフコンペ収益金を寄付

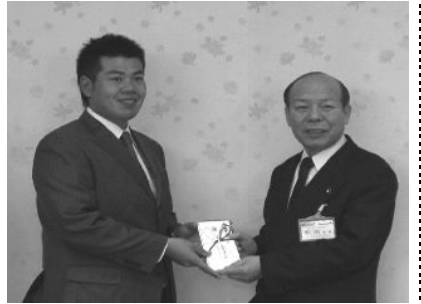
2月2日(火)、プロゴルファー甲斐慎太郎プロと狭山入間 甲斐慎太郎を応援する会が、仲川市長を表敬訪問しました。

狭山市在住の甲斐プロが地域に貢献したいという意志のもと同会と共催で、1月31日に入間カントリークラブでチャリティゴルフコンペを開催、集まった収益金を社会福祉のため、狭山市へ寄付しました。

甲斐プロは1981年生まれ、宮崎県出身。2003年アマチュア時代に、日本学生選手権制覇と輝かしい成績を残し、2004年にプロ転向、同年に狭山・入間市にある武蔵カントリークラブを拠点に活動しています。

2008年8月に「バナH杯KBCオーガスタ」でツアー初優勝、今年もさらなる活躍が期待されます。

また、市内で活躍している甲斐プロを応援して、プロゴルフファーストとして活動を支援する為、



狭山市・入間市青年会議所で「狭山入間 甲斐慎太郎を応援する会」を2009年7月に発足、現在会員数およそ40人で活動しています。

甲斐プロは「これからも狭山の地ががんばっていきなさい」と話しました。

仲川市長は「是非、会が応援するもので、甲斐プロがますます成績を上げてゴルフ界で活躍することを期待します」と激励しました。

甲斐プロは5月に狭山ゴルフクラブで行われるジャパングルフツアートーナメント「ダイヤモンドカップゴルフ2010」に出場します。

古布から作るお雛さま講座



1月29日(金)、第一環境センターリサイクルプラザで「古布から作るお雛さま講座」が開催されました。

これは、リサイクルを進める中で行っている講座の一つで、今回は季節に合わせて雛人形を作りました。

講師は同プラザのスタッフが行い、10人が参加しました。

雛人形ということで、着物や帯などの生地が用意され、講師の説明を受けながら布を折り縫って、色鮮やかな手作りの雛人形を作りました。

完成後、参加者は自作した作品の前で記念撮影をし講座は終了しました。

ジャズコンサート鑑賞会

1月22日(金)、市立南小学校で、本物の舞台芸術体験事業「ジャズコンサート鑑賞会」が行われました。

子どもたちの芸術を愛する心を育て、豊かな情操を養うことを目的に、平成14年から文化庁が実施しているもので、子どもたちに本物の舞台芸術に身近に触れる機会を提供しています。

今回は、「古野光昭フルノーツ with 寺井尚子」によるジャズの演奏会で、児童、教師、保護者、地域住民の約700人が体育館で鑑賞しました。

演奏が始まると、子どもたちはプロの巧みな演奏に真剣に聞き入り、演奏中、それぞれのソロパートが終わる度に、会場からは大きな拍手がこぼれました。

今回は演奏に合わせて照明の演出もあり、体育館はライブ会場のような雰囲気になりました。

ジャズの種類や楽器の紹介がされた後、ジャズアレンジされた校歌が演奏されると、子どもたちが大きな声で歌いました。



最後は全員が立ち上がり、ステージと参加者が一体となって演奏会は終了しました。